



取り組み事例

安全・環境・健康の確保

グループ全拠点における安全確保への取り組み

住友化学グループでは、「安全をすべてに優先させる」という基本理念のもと、全拠点で重大事故・重大災害ゼロの達成を目指しています。そのために、グループ共通の「安全グラウンドルール」の周知徹底、職場の安全文化レベルの評価・向上、IoT技術の活用による安全管理レベルの強化、自然災害対策の見直し・強化などの安全確保の取り組みの一層のレベルアップを図っています。そして、地域対話を通じて、こうした安全確保への取り組みを地域の皆さまに説明することで、相互理解を深めていくように努めています。

■ 地域対話の実施状況

2022年度実績※

開催回数 **9**回 参加者数 **129**人

※ 住友化学の各事業所での累計実績

清掃活動「グローバル クリーンアップ チャレンジ」

住友化学グループでは、事業所ごとに事業所地域や海岸などにおける清掃活動を通して、廃プラスチック問題の解決に貢献しています。

屋外に放置されたごみや、ポイ捨てされたごみなどは、雨風によって河川に入り、海に流れ出て、プラスチックごみも含めた海洋ごみを増やす原因になると言われています。私たちがのできる身近な清掃活動が、海洋ごみ問題対策につながっています。

2022年度に、当社グループは、さらなるグループの一体感の醸成を目指し、新たな清掃活動「グローバル クリーンアップ チャレンジ」を開始しました。これからも、廃プラスチック問題に取り組んでいきます。



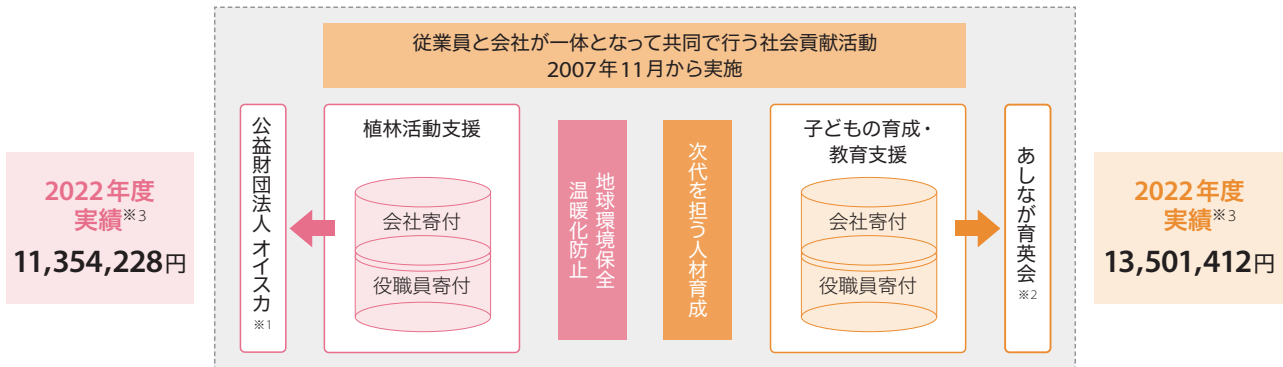
活動のシンボル画像

マッチングギフト制度

従業員と会社が一体となって行う社会貢献活動として、2007年から住友化学グループの役職員から寄付を募り、寄付金額と同額を会社が拠出して支援先に寄付する「マッチングギフト制度」に労働組合と協働で取り組んでいます。

また、マッチングギフト制度の寄付金を通じた支援先の一つである公益財団法人オイスカ^{※1}とともに各種植林プロジェクトに取り組み、労働組合と協働し、2008年から従業員ボランティアを派遣しています。

■ マッチングギフト制度



※1 公益財団法人 オイスカ：
アジア・太平洋地域を中心に農村開発・環境保全活動などを展開している国際NGO。支援金は「子供の森計画」や「東日本大震災復興・海岸林再生プロジェクト」に活用されている

※2 あしなが育英会：
病気、災害などで親を亡くした子どもたちを物心両面で支える民間非営利団体。支援金は、病気・災害・自死遺児らの奨学資金として活用されている

※3 役職員と会社のマッチングギフト方式

「TABLE FOR TWO」活動

住友化学は、2008年5月から当社の各事業所において、マッチングギフト方式（役職員の寄付金額と同額を会社が拠出）でTABLE FOR TWO (TFT)に参加しています。

TFTとは、社員食堂でヘルシーメニューを提供し、その売上の一部（1食あたり20円）を開発途上国の子どもたちの学校給食費用として寄付することで、開発途上国での飢餓と先進国での肥満や生活習慣病という問題に同時に取り組むことができ、食の不均衡の解消を目指す日本発の社会貢献活動です。

当社の2022年の支援に対して、TABLE FOR TWO事務局より、「プラチナパートナー」として感謝状が授与されました。

2022年実績
1,045,520円 **26,138食分**
 (役職員と会社のマッチングギフト方式)





次代を担う子どもたちの育成

理科教室を通じた教育支援

住友化学グループは、子ども向けの実験や工作を行う「理科教室」を通じて、私たちの身の回りの製品が化学と深く結びついていることを分かりやすく伝えるとともに、子どもたちに化学の不思議やおもしろさに触れる機会を提供しています。

この「理科教室」は、工場・研究所見学会での実施のほか、事業所近隣の学校へ訪問したり自治体などが主催する夏休みのイベントなどに参加する「出前授業」としても展開しています。学校やコミュニティ・スクール^{※1}などからは、毎年地元の子どもたちが開催を楽しみにしているとの声をいただいております。2022年度は新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した上で、一部の事業所において実施しました。

また、筑波地区研究所では、市の体験型科学教育事業「つくばSTEAMコンパス」に協力し、「身近なSDGsをさくろう」をテーマに、中学校の教室をウェブ会議システムで結び授業を行いました。

愛媛工場では、コロナ禍で外出を自粛している子どもたちが自宅で楽しく過ごせるように、昨年に引き続き、動画「おうちでできる！理科実験・工作^{※2}」(Vol.7~9)を愛媛工場OBと協同で制作しました。自由に視聴いただけるようYouTubeで公開しています。



動画の一部

「おうちでできる！理科実験・工作」

- vol.7 ふわもこフラワーをつくろう
- vol.8 キラキラキュートな芳香剤をつくろう
- vol.9 カタカタキツツキをつくろう

※1 コミュニティ・スクール(学校運営協議会)：文部科学省初等中等教育局が推進する、保護者や地域が学校のさまざまな課題解決に参画し、それぞれの立場で主体的に子どもたちの成長を支えていくための仕組み

※2 動画制作他のご協力：あかがねミュージアム、ハートネットワーク(ハートTV：新居浜市・西条市のケーブルテレビ)、住友化学愛媛社友会(当社OB団体)

「おうちでできる！理科実験・工作」

<https://youtube.com/playlist?list=PLdCPE61HN0W7Jcys1mzqLjrVl52fjvJLY>

SDGsに関する教育支援

近年、教育現場におけるSDGs達成(目標4「質の高い教育をみんなに」)への手段として、「持続可能な開発のための教育」が注目されています。当社でも、SDGsが目指す持続可能な社会の担い手となる次世代へ、さまざまな形で当社グループのサステナビリティ推進の取り組みの紹介や教育支援を行っています。社員が講師となり、学校訪問やオンラインで実施する授業や、東京本社に開設した「共創ラウンジSYNERGYCA」へ来訪いただき、コミュニケーションを図りながら社会課題解決を探る体験型の授業を実施しています。



第13回「エコとわざ」コンクール

住友化学は、環境省から認定を受けた「エコ・ファースト企業」による「エコ・ファースト推進協議会」※の加盟企業として「エコとわざ」コンクールに協賛しています。

2022年度は「美しい地球で暮らしていくために、私たちに何ができるか考えよう～2050年どんな未来にしたいかな～」をテーマに、全国の小・中学生から創作ことわざを募集しました。当社も企業賞の一社として住友化学賞を設定し、ごみや廃プラスチック問題の課題解決を目指す当社の姿勢につながる以下の作品を、2022年度の住友化学賞として選定しました。

※ 環境保全に関する業界のトップランナーとして、環境大臣の認定を受けた「エコ・ファースト企業」56社から構成される団体。加盟企業各社は、業界の枠組みを越えて協力し、環境保全活動を推進している

住友化学賞

ゴミじゃない 分ければ資源 また会おう

藤井 梨輝さん

〈西宮市立春風小学校 6年 (2022年受賞当時)〉



授賞式の様子

第13回「エコとわざ」コンクール審査結果発表

<https://www.eco1st.jp/wp-content/uploads/2022/10/8abdd0a96b1f974aeb00240051c78e5f-2.pdf>

アフリカにおける教育支援

住友化学は、アフリカが貧困から脱却し自立的な経済発展を実現するためには、教育環境の整備が重要と考えており、アフリカの未来を担う子どもたちのための教育支援を2005年度から継続しています。当初は学校建設を主な支援としていましたが、その後、化学会社としての支援内容を検討し、理数系教育や女子学生への支援、ICT関連教育への支援などへ展開してきました。

現在は、当社が経営として取り組む重要課題の一つである資源循環への貢献に寄与する取り組みを支援しています。

ナイジェリアでの環境課題解決に向けた支援

住友化学は、ナイジェリア連邦共和国のオアンド財団による、プラスチックリサイクル意識の向上を目指すプロジェクト「Clean Our World (以下、「COWプロジェクト」)」に対し、年間5万ドルの寄付を行っています。ナイジェリアでは年間3,200万トン以上のごみが発生し、そのうちの30%以上に廃プラスチックが含まれていると推定されています。現在、それらの廃プラスチックの大部分は適切に処理されておらず、排水管の詰まりによる冠水や、西アフリカの主要河川であるニジェール川などから海洋への流出を引き起こしています。このような状況を解決するため、オアンド財団は、「COWプロジェクト」を2020年に立ち上げ、将来を担う小学生に廃プラスチック問題およびリサイクルに関する知識を学ぶ機会を提供するほか、地域の清掃活動、廃棄物回収および日用品への加工体験などを行っています。この取り組みで回収された約11トンの廃プラスチックの一部は学用品などに交換され、子どもたちに還元しています。

当社は、これからも教育環境の改善を重要な社会貢献活動として取り組むとともに、地球規模での社会課題の解決に向けた取り組みを積極的に進めていきます。



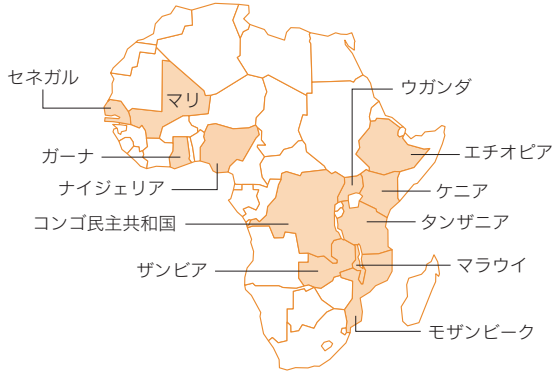
小学校でのプラボトル回収



集められたプラボトルの分別



■ アフリカにおける教育支援



支援実績

総受益者数

68,000人超

支援国 12カ国
(33プロジェクト完了)

■ 支援実績

国	連携相手	実施内容
タンザニア	WWJ※1	2005～2007年に小学校や教員住宅などを建設、また2014年に小学校やトイレを建設
ケニア	WWJ※1	2005～2006年に小学校の女子寮やトイレなどを建設、また2015年に小学校を建設し、算数・理科の教材を支給
ザンビア	WWJ※1	2005～2007年に中学校、トイレ、教員住宅などを建設
ウガンダ	WWJ※1	2006年に小学校やトイレなどを建設、2008～2011年に学校やトイレなどを建設、2019～2020年に小学校の教室建設とマラリア予防について啓発
エチオピア	WWJ※1	2007年に小学校、中学校、トイレなどを建設、また2013年に小学校とトイレ、貯水タンクなどを建設
マリ	PIJ※2	2010～2012年に小学校、トイレ、井戸などを建設
ガーナ	PIJ※2	2010～2012年に小学校や図書館などを建設、2015～2016年に技術学校や科学実験教室などを建設、また2019～2020年に工業高校や科学実験室を建設し、教科書の支給と教師の研修を実施
マラウイ	WWJ※1	2010～2012年に小学校などを建設、また2013年に小学校やトイレなどを建設
コンゴ民主共和国	WWJ※1	2012～2013年に小学校やトイレなどを建設、また2016～2019年に小学校やトイレなどを建設、算数・理科の教材を支給、教師に対する研修、マラリア予防について啓発
モザンビーク	PIJ※2	2012～2013年に小学校やトイレなどを建設
セネガル	PIJ※2	2014～2015年に小学校やトイレなどを建設、学校管理委員会に対する研修を実施、また2016～2019年に中学校・高校やトイレを建設、科学実験室を設置、女子向け理系コースを強化
ナイジェリア	Oando※3	2017～2020年にICTセンターを設置、コンピュータ周辺機器を支給、STEM(理数系)教育を実施 2020～2022年に清掃活動、廃プラスチックやリサイクルに関する教育、廃棄物回収(COW※4I～COW※4IIIプロジェクト)を実施

※1 WWJ: 特定非営利活動(NPO)法人ワールド・ビジョン・ジャパン

※2 PIJ: 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

※3 Oando: ナイジェリア連邦共和国のオアンド財団

※4 COW(Clean Our World): オアンド財団によるプラスチックリサイクル意識の向上を目指すプロジェクト



自然災害に対する支援

トルコ・シリア大地震に対する支援

住友化学は、トルコ・シリア大地震（2023年2月）の支援として、日本赤十字社を通じて義援金200万円の寄付を行いました。また、物資支援として、感染症対策に効果のある当社製品「スミシールド™50WG」500万円相当を国際人道支援NGOであるThe Mentor Initiative*を通じて無償提供しました。

* The Mentor Initiative：2002年に設立された国際人道支援NGO。当社ベクターコントロール(VC)製品を被災地での防疫薬等の散布に活用している

東日本大震災復興支援

2011年の東日本大震災以来、震災の記憶を風化させないために社員参加型の継続的な取り組みを実施しています。社員食堂では寄付金付き「被災地応援メニュー」の提供を2011年4月から実施しています。売上の一部を寄付金として同額を会社が拠出し、被災地の震災遺児支援事業に寄付しています。

また、東日本大震災の津波により被害を受けた宮城県名取市で行われている「オイスカ海岸林再生プロジェクト」に、2013年度よりマッチングギフト制度を通じて参加しています。

2015年度からは従業員ボランティアを派遣し、海岸林約100ヘクタールの再生に向けて、クロマツの苗木の提供・植林・植林後の下草刈りや施肥などを行ってききましたが、2022年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。植林目標はすでに達成しており、今後は植林したクロマツの管理にボランティアとして携わっていきます。

2022年度実績

被災地応援メニュー

604,280円 **15,107食**

(役職員と会社のマッチングギフト方式)

「東日本大震災いわての学び希望基金」 292,480円 7,312食
(2022年4月～2022年9月利用分まで)

「東日本大震災みやぎ子ども育英募金」 311,800円 7,795食
(2022年10月～2023年3月利用分まで)

社会貢献活動事例集

https://www.sumitomo-chem.co.jp/sustainability/files/docs/social_contribution_activities.pdf

ウクライナ緊急人道支援

住友化学は、紛争により、ウクライナから近隣国への、あるいはウクライナ国内での避難を余儀なくされている方々に対して、緊急の人道支援を行いました。日本赤十字社を通じて1,000万円の寄付を行い、加えて社員へ募金を呼びかけ、役員から募った義援金と同額を会社が拠出するマッチング方式により、総額825万円の寄付を行いました。



地域との共生

地域に根差した情報開示と多様な双方向対話の実践

住友化学は、地域の皆さまのご理解・ご協力のもと、地域の一員としてよりよい事業活動を継続していくための円滑なコミュニケーションづくりをしています。

毎年、全事業所がそれぞれ環境・安全レポートを作成・発行し、各事業所における取り組みを詳しく報告しています。また、愛媛・大阪・大分の各事業所では、地域に密着した情報発信として、新聞折り込みなどによる地域広報紙も発行しています。このほか、各事業所における地域の皆さまとの定期的な対話集会や意見交流会、工場見学会、自治体との協働によるリスクコミュニケーションモデル事業、行政・企業に対する環境・安全面への支援事業、さらには化学産業連携による地域対話の実施など、幅広い視点での多様な双方向対話も積極的に行っています。

今後も、必要な情報を発信し、地域のさまざまなステークホルダーの皆さまと継続的な意見交換を行いながら当社へのさらなる理解と一層の信頼獲得に取り組んでいきます。

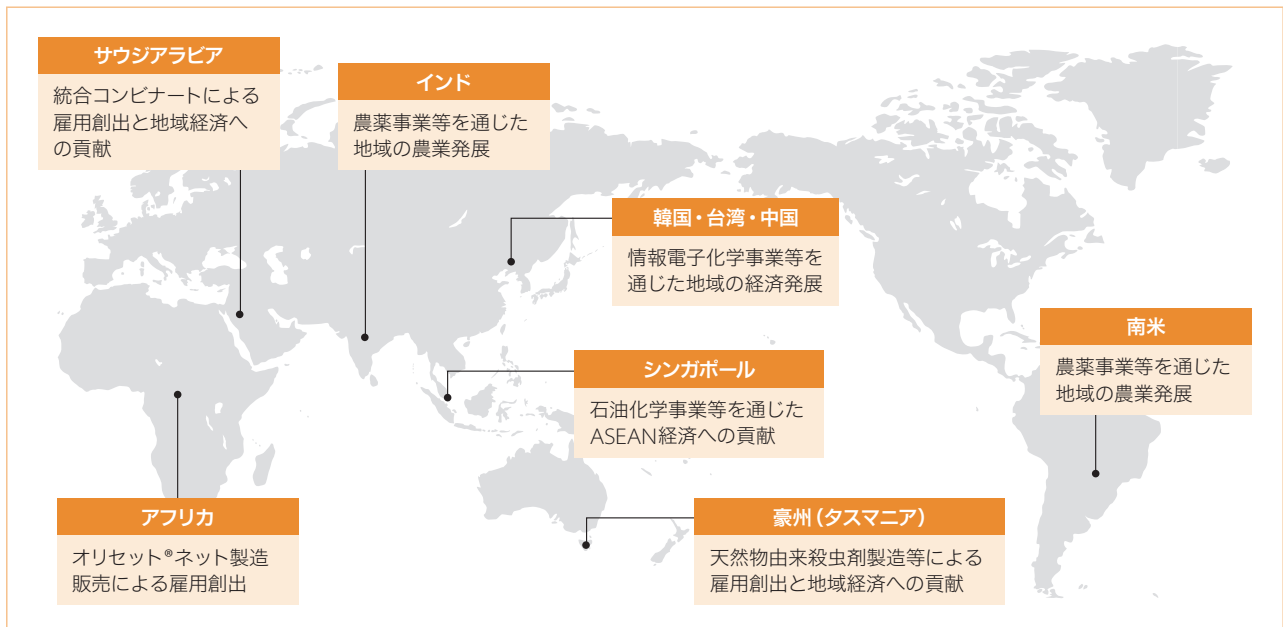
事業所版 環境・安全レポート

<https://www.sumitomo-chem.co.jp/sustainability/information/library/>

各国・地域との共生

住友化学は、これまで地域のニーズに合わせた多様な活動を展開し、地域の皆さまとの良好な関係の構築に努めてきました。また、グローバルな事業展開により各国・地域の経済発展にも貢献しています。

■ 各国・地域の経済発展に貢献



今後に向けて

住友化学グループは、地域の皆さまから信頼され続けるために、さまざまな活動を通じて「地域との共存共栄」「世界を取り巻く諸課題への解決」につながる住友化学グループらしい取り組みを推進していきます。